

別表 1 営業の種類に応じた営業内容及び給水・廃水タンクの容量

業種	営業内容	給水・廃水タンクの容量
飲食店営業	I 型 (40 型) 簡単な営業 ・単一の工程からなる調理であって、かつ、単一品目のみ取り扱う。 ・処理や加工を伴わない非包装魚介類の付帯的な販売を行う。	約 40 リットル
	II 型 (80 型) 比較的大量の水を要しない営業 ・2 工程からなる調理を行う。 ・複数品目を取り扱う。 ・処理を伴わない非包装魚介類の付帯的な販売を行う。 ・生食用鮮魚介類の調製を伴う販売をする。	約 80 リットル
	III 型 (基本型) 比較的大量の水を要する営業 ・3 工程以上からなる調理を行う。 ・通常の食器を使用することができる。 ・鮮魚介類の処理及び生食用鮮魚介類の調製を伴う販売をする。	約 200 リットル
食肉処理業	野生鳥獣の生体又はとたい及び食肉の処理を行う	約 100 リットル (目安として、鹿または、いのししを処理する場合の成獣 1 頭あたり)

別表 2 飲食店営業における給水・廃水タンクの容量の判定

番号	要件	該当する場合	該当しない場合
①	調理の工程が 3 工程以上	約 200 リットル	②を判定
②	リスクリスト(200L)に該当する	約 200 リットル	③を判定
③	調理の工程が 1 工程かつ単一品目のみ取り扱う	④を判定	約 80 リットル
④	リスクリスト(80L)に該当する	約 80 リットル	約 40 リットル